

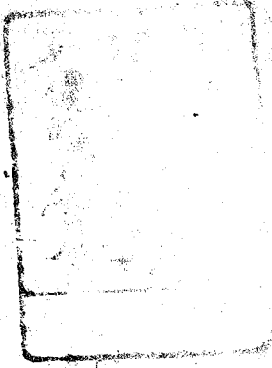
昭和十四年九月二十五日 印刷 納本  
昭和十四年十月一日(毎月一回)日發行

禁轉載

# 道路の改良

第二十一卷

第十號



社団法人  
道路改良會

鋪裝報國

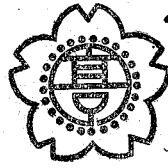
東京・丸之内

日本鋪道株式會社

社長 淺利三郎

東京・大阪・福岡・札幌・京阪・東北・新京・備前・名古屋・京橋

土木建築  
道路鋪裝  
工事請負



# 株式會社 高野組

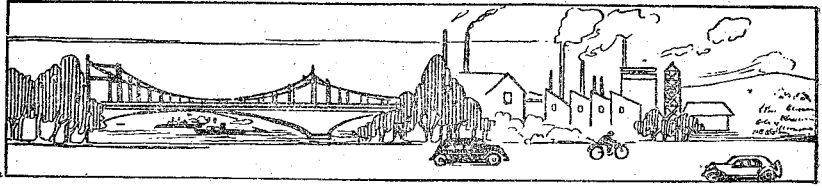
本社

大阪出張所

福岡出張所

上海出張所

東京市京橋區京橋一ノ二  
電話 京橋(56) 一九二二三番  
大阪市北區梅ヶ枝町一五七(梅ヶ枝ビル)  
電話 北(36) 一九五六番  
福岡市外箱崎町白濱網屋三二二一  
電話 東 三三四五番  
上海吳淞町一八九號  
電話 四三二一三番



道路の改良 第二十一卷第十號 目次 昭和十四年十月一日發行

口繪 神島橋 (廣島縣)

卷頭言

論說

速力増加の經濟的限界……………慶應大學教授 增井幸雄(三)

研究

判例瞥見……………内務省田口二郎(一四)

說苑

埼玉縣下中等學校生徒の集團勤勞に就て……………埼玉縣土木課長 三宅發造(二〇)

道路維持修繕の動向を見る(承前)……………K・A 生(三)

茨城縣の災害救濟土木事業の執行と其の前後の情況(一)……………茨城縣道路主事 瀧川勸則(一五)

木會路(五)……………和泉生(四)

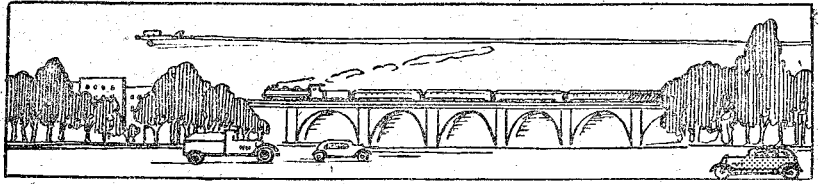
東北漫歩……………高知縣梅田三郎平(六)

輝やかなしい高知縣道路愛護運動を見る(三)……………高知縣瀧口利太郎(七)

道路嵩上工事施行に伴ふ損害賠償事件に就て(一)……………宮城縣土木部道路課(八)

第一回修路競技會報告……………Y・H 生(一〇)

時局日誌(二十五)……………(一〇)



内務省特報

◎新舊兩内務大臣の挨拶◎新舊内務次官の挨拶◎興亞泰公日第一日  
◎首相の歐洲戦争に對處聲明◎日立市の設置……………(二六)

海外事情

海外雜助雜記……………T & T(二〇)

地方通信

東北・關東・東山・東海・近畿・中國・四國・九州の各地方……………(二五)

法令

通牒 道路法ニ依リ認定ヲ爲ササル道路敷地管理換ニ關スル件……………(二四)

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………M O 生(二四)

逐條土地收用法資料(十四)……………高坂孝三(二五)

路政春秋

今に始めぬ受益負擔……………其他……………(二六)

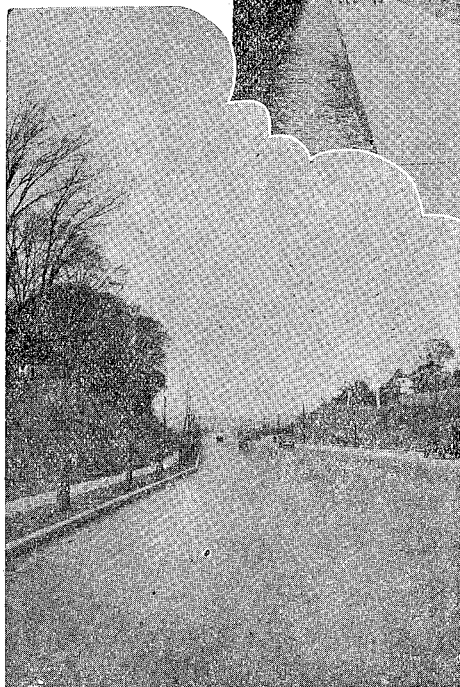
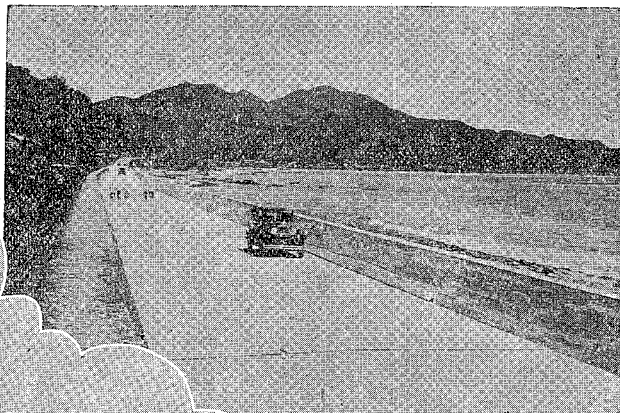
雜報

◎理事會開催◎道路功績者の表彰◎幹事委嘱◎新内閣員並書記官長法制局長官一覽表◎小原直氏  
略歴◎大達茂雄氏略歴◎高橋寺本兩内務事務官略歴◎細田幹事の榮轉◎東海道改良促進聯盟の結  
成◎「ロータリー」の成績◎全國都市問題會議第七回總會◎東京市道路誌◎内務省土木試驗所談話  
會◎近刊圖書雜誌……………(二六)

叙任 辭令……………(二〇)

編輯室の内外……………(八四)

静岡縣由比國道  
ベロセメント使用



↑大宮街道志村附近  
淺野セメント使用

早 強  
アサノ  
ベロセメント

強度 高ク  
硬リ 早ク  
使テ 經濟

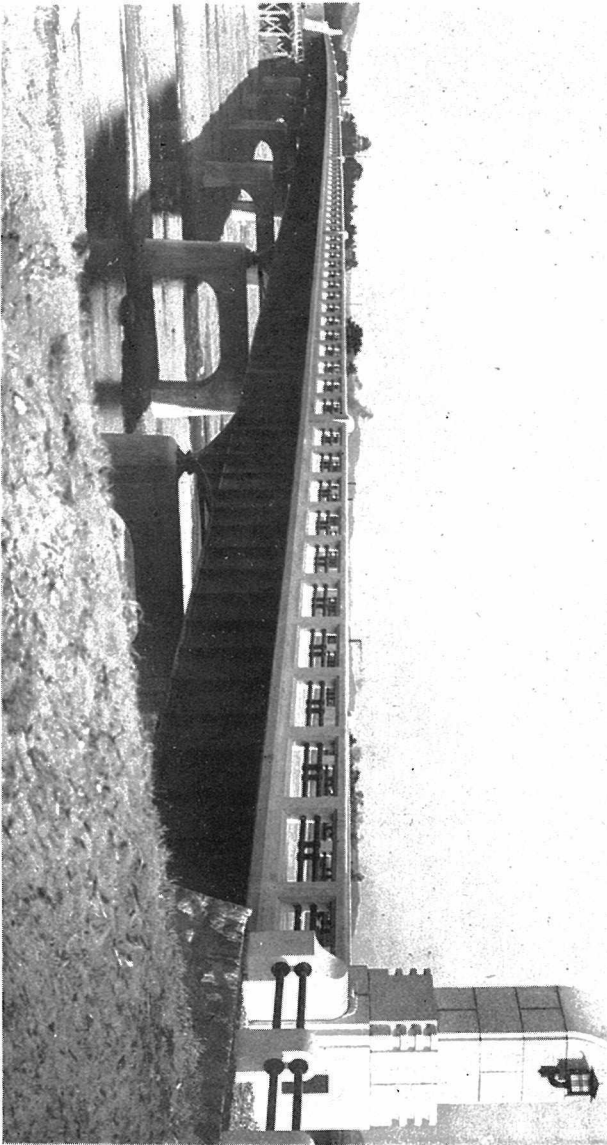
—説明書御申込次第送呈—

淺野セメント株式會社

東京市 丸ノ内 海上ビル

神 島 橋 (廣 島 縣)

縣 島 廣 六 六 三 三 長 橋  
六 六 三 三 長 橋 念 記 功 坡 橋 島 神 市 山 福 線 兼 二 道 國



國 道 二 號 線 福 山 市

訂補重版出來！

内容見本御申越次第贈呈

# 道路職員必携

三五判壹千百餘頁  
レザークロス装函入  
定價 金 五 圓

送料 内地 金 十 四 錢  
臺灣、朝鮮、滿洲 支那 金 十 八 錢

本書は道路改良計畫並に其の設計の指針として、本會が特に道路技術並に行政の權威者三十餘名の方に執筆を依頼し完成したるものにして、内容は豊富に且つ記述も實に精緻を極めたもので、印刷裝幀も鮮麗優雅にて携帶に便なるハンドブックである。

殊に道路構造令・街路構造令及細別につきても詳細に記載せる點に於ては、他に未だ嘗てその比を見ざるものにして斯界人士の必須書である。

目次 第一編總論、第二編道路の設計、第三編土工、第四編道路の排水設備、第五編舗裝の構造及施工、第六編工作物、第七編都市計畫街路、第八編交通整理及街路照明の施設、第九編道路材料、第十編維持及修繕、第十一編要一道路用器具機械、第十二編示方書、第十三編法規、(附録 測量に關する諸表其他)

本會々員及學生に限り

特價金參圓五十錢に頒つ

發行所 好 文 館 書 店  
社 團 法 人 道 路 改 良 會

東京市小石川區諏訪町五十六番地  
振替 東京 九 〇 二 二 番  
電話小石川(85)二三七七、二三七八、二三七九番



書修獨の者務實木土

# 座講木土用實

級初  
と  
級上

度程等中

秋期新學期開始 新會員大募集

一億一心。實力養成。技術は即ち力である。  
世は技術時代。土木技術は國本である。

新東亞建設の第一歩は土木日本の大陸進出に在り。行け！ 土木家は大陸に!!! 國力伸張のため將た東亞興隆のため。

土木を以て身を立てんと欲する人のために、島國日本より大陸日本へ進出せんと欲する人のために、本講座を捧げる。

▼兩講座共初代内務省土木試験所長、元東京市土木局長牧彦七博士の綜管下に、内務、鐵道、農林、逓信四省、東大、日大、興亞院、滿洲國政府、東京市役所、北京特別市公署、其他の關係諸先生の執筆に成る時需の最良書である。

▼初級講座には土木製圖・測量學・應用力學・土木材料・施工法・鐵筋コンクリート・河川工學・砂防工學・港灣・道路・橋梁・鐵道工學・發電水力・都市計畫・上水道・下水道の外に科外講あり。一年三ヶ月修了。毎月一冊配本。會費金壹圓五拾錢前納。全卷即時配本可能。

▼上級講座には簡易鋪裝・セメント系鋪裝・コンクリート橋梁及溝橋・鑿道工・河港及運河・基礎工・擁壁工・農業土木・航空土木・防空土木・高速鐵道・軌道及特殊鐵道・土木用機械・土地質學・土木工事監督・土木行政法綱要・應用電氣工事等あり。一ヶ年終了。毎月一冊配本。會費金壹圓五拾錢前納。昭和十三年七月開講。

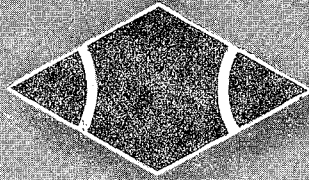
▼申込期限は來る十二月十五日。臺・樟・鮮・滿・各二十錢各自負擔。  
▼期限内申込には種々特典があります。

内容見本無代進呈

東京市世田谷區上馬町一ノ六五九番地

日本土木工學會

振替東京二〇八三四番



# アスファルト

販  
売

ウ  
ォ  
ー  
タ  
ー  
ア  
ス  
フ  
ア  
ル  
ト

ス  
ト  
ー  
ク  
ア  
ス  
フ  
ア  
ル  
ト

ス  
ペ  
シ  
ヤ  
ル  
ア  
ス  
フ  
ア  
ル  
ト

ス  
ロ  
ン  
グ  
ア  
ス  
フ  
ア  
ル  
ト

施  
工

小倉石油株式会社  
専属販売店

株式  
會社

## 南部商會

本店 東京丸の内三葉六号館・電話丸の内 1654-5014  
出張所 名古屋市南区南大津通東陽ビル・電話中国 2785 番



事互装舗路道トルアブスア

事互装舗トルアフーターオウ割乳青瀝

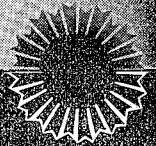
賣販理代トルアフーターオウ・トルアブスア倉小

膏販造製グソイフルヒサア

**社 會 式 株 本 工 市 都**

地 番 二 日 丁 一 橋 宗 區 橋 宗 市 京 東

番 八 六 二 二 ( 5 6 ) 橋 宗 話 電



昭和十四年

道路の改良

十月一日

第十二卷

第十號

## 言 頭 卷

日支事變勃發以來實際的情勢に應じて我國は東亞新秩序の確立を不動の國策とし國家總力を擧げて邁進することとなつた。而かも複雑多變を極むる國際情勢に對處しつゝ明朗潤達の精神を以て庶政に革新を加へ、國民思想を正しき方向に進ましめ、國民の能力を最高度に發揮せしむることが緊迫せる重要課題となつたのである。爲政者たる軍人たると實業家たるとを問はず、全國民が一如となつて之れが爲めに設令我等國民の本質が犧牲的に構造せられて更らに最も秀でたる特質として向上すべきに拘はらず功利主義的觀念の爲めに退化せられたとはいへ今や各自の立場と環境に於て犧牲的生活が要求せられ運命づけられて居る、故に一段の反省熟慮を要する。

忠孝の道は儒教に依つて教へられざる前既に我日本民族の格守せる所である之が日本精神であると論じながら孝を獎むるに身體髮膚之を父母に受く敢て毀傷せざるは孝の始めなり身を立て名を揚ぐるは孝の終なりと言を以てする國學者がある斯く教ゆるに於て果して日本民族性たる忠孝の道と矛盾する所なきか、受くることなければ與ふるを要せず、恩惠存せざれば奉仕するに及ばずとの觀念は實に功利主義を排して功利主義に墮するものにあらざるか、愛兒を掠奪せられて自殺した母あり之れ母性愛の表現である。兒たるもの孝心なかるべからずと修養の言を放送したる道學者がある思はざるの甚しきものと謂ふべきか、眞の母性愛は愛兒を敢て危険に追ひやり、眞理正義祖國の爲めに犠牲たらしむると云ふ高貴なる犧牲的精神に外ならない、人を教へ導くに道を得ざる時は却て逆結果を招來する、深甚の戒心を要するは人の師である。

我日本帝國は明治維新以來光輝ある高速度の進歩發達を遂げ採長補短以て今日の文化を見るに至つた、即ち科學に哲學に醫學に廣汎なる知識は眩惑を感ずる底の進歩を視、運動競技其の他保健方策は肉體の強健を増進しつゝある、有形的物質的方面に於ての赫しき將來は期待せらるる状態となつたことは疑を容るるの餘地がない、然るに一抹の不安と不満と焦燥とは斷へず國民の胸中に去來し未だ解消せざることは争ふべからざる吾々生活の實想である。之れ果して何が故か、吾曹念ふに凡そ人の生活力は單に環境の事情にのみ依存するものでない。又外界との連鎖である肉體的關係のみで支持せらるるものでもない。實は精神的躍動に立つものである。其處に本能的渴仰の焔が燃え、獸身と犠牲との生命力が高鳴つて居る。此に満足し徹底する所ありてこそ始めて何等の不安、何等の不滿、何等の焦燥を視ざるに至るのである。(九二〇日、洗民)